

認知症の 治療について

認知症治療について当法人で日々認知症患者と向き合い、診療をしている北山病院院長代行の澤田親男医師と看護介護部長の坂井加津美看護師にお話しをお聞きしました。



医療法人 三幸会
北山病院 院長代行
澤田親男

平成6年 京都府立医科大学卒業
平成12年 北山病院 勤務
平成23年 同院 院長代行
日本認知症学会 専門医・指導医
京都認知症総合対策推進プロジェクト委員

北山病院は平成10年に「もの忘れ外来」と、京都で初めてとなる老人性認知症疾患療養病棟「いずみ」60床を開設しました。高齢化社会の中で、認知症の専門機関としていち早く取り組みを始め、認知症を持つ患者さまの外来診療、入院診療を行っています。平成12年からは介護保険適応病棟として運営を行っています。現在、当法人では、北山病院、第二北山病院をはじめとし、二つの精神科クリニック、老人保健施設紫雲苑、小規模多機能ホーム、高齢者グループホーム、居宅支援事業所、ホームヘルプ事業所、訪問看護ステーションと、あらゆる段階の認知症の方に対応できるサービスを提供できる体制をとっています。

——アルツハイマー病とは
澤田 アルツハイマー病は認知症の原因となる病気の一つです。脳の細胞が少しずつ死んでいき、認知機能が低下してしまう病気です。認知症になる病気は、アルツハイマー病のほかにも、脳梗塞や頭部外傷など様々なものがあります。アルツハイマー病は全ての認知症患者の半数以上と言われています。原因ははっきりしていませんが、高齢になるほど発症率が高いことは確かです。

——認知症の患者さんが北山病院を受診されるきっかけは？

澤田 初期の認知症の患者さんは自らのもの忘れを自覚されている方も多く、診断目的や進行の予防方法を知りたいという目的で来られる方も多いです。介護サービスの使い方をどこを知りたいとの家族の意向で初診される場合もあります。ご本人やご家族からの依頼以外に、かかりつけ医や一般病棟の医師、介護施設からの依頼も多く受けています。

——外来での診療の内容はどのようなものですか？

澤田 もの忘れ外来では、問診や画像診断による認知症の有無や程度、原因の診断を行い、認知症の中核症状や認知症に伴う行動・心理症状についています。

対して、非薬物療法とともに、抗認知症薬をはじめとした向精神病薬による薬物療法を専門的な立場から行っています。また、介護者（ご家族や施設スタッフ）の日頃の介護に対する悩みや不安を聞き、介護方法のアドバイスを行い、本人の状態に合わせたサービスの選択（社会資源の活用）の提案やお手伝いをします。また介護保険の申請をされていない方に対しては、当院の相談員から申請の手順や方法を説明させて頂いています。

——どのような方が入院の対象となりますか？

澤田 当院への入院治療の対象となる方は、やはり在宅や施設において行動・心理症状の対応が困難なケースが殆どです。入院する病棟は、症状の程度により精神科一般病棟か老人性認知症疾患療養病棟に分かれます。入院後は確定診断を行い、身体機能や認知機能への影響を考慮しながら、できるだけ短期間で症状に対する薬剤調整を行っていきます。

——他の医療機関との連携は、大事にされているのでしょうか？

澤田 受診の結果や薬剤調整の内容については、すぐに紹介元のかかりつけ医や病棟の医師に報告を行い、認知症の方が地域での生活やこれまでの環境での生活が継続できるように、病棟―診療所連携や病棟―病院連携を常に大切にできるように心がけています。

——北山病院での入院治療は、どのようなものですか？

澤田 病棟内では、薬物療法以外に非薬物療法として回想療法や作業療法（創作活動、音楽療法など）、院内のレクリエーションなども行っています。

坂井 認知症の患者さんが、いかに生き生きと生活できるかということを重視しています。食事や排泄、睡眠

——退院調整に向けてどのようなことをされていますか？

坂井 ご本人、ご家族、在宅の関係スタッフや退院後に利用予定の施設スタッフが集まり、カンファレンスを実施しています。ご家族や退院後に利用する介護事業所のスタッフに、ご本人の状態を見て頂き、意見交換を行い、今後のサービスの利用方法や対応方法の調整を行います。また、

などの日常生活のリズムを整えることも大切です。そのためには、ご本人の現在の状態だけではなく、もとの生活スタイルや、好まれていたことなどを、ご本人だけではなく、ご家族からも聞かせて頂き、その人らしさを大切にしながら過ごせる環境づくりを心掛けています。行動・心理症状に対しても薬物療法にたよるだけではなく、症状を引き起こす原因や意味を探索し、それに応じた個別性のあるケアの工夫を行っています。

——啓発活動としてどのようなことをされていますか？

澤田 市民や医療・介護関係機関など幅広い啓発活動を行っています。サポート医として、医師を対象としたかかりつけ医の認知症対応力向上研修の企画や実施、地区医師会（左京医師会）の事業としての医師やコ

メディカルを対象とした研究会や勉強会、講演会、市民講座や認知症サポーター養成講座などにも協力し、地域における認知症の早期発見、適切な治療とケア、地域連携の構築に向けて取り組んでいます。

坂井 昨年度から実施されている、身体治療を行う一般病棟のスタッフ向けの認知症対応力向上研修にも、当院の医師、看護師、相談員が講師として協力をしています。



病棟棟長 岡田 信二
看護師 介護支援専門員

初めまして、4月の異動でいずみ病棟に勤務 介護保険適用の病棟です。また病棟業務に戸惑うこともありませんが、「急がず・休まずの精神」で頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



退院後生活環境相談員
猪飼 裕奈
精神保健福祉士

今年の5月より老人性認知症疾患療養病棟いずみの専従相談員として勤務させていただいております。入院の窓口となり、医師をはじめ様々な職種のスタッフと連携し患者様のより良い治療、より良い生活を目指して業務に取り組んでいます。まだまだ未熟者ですが、患者様、またそのご家族様の笑顔が見られるよう日々努力して参ります。宜しくお願い致します。



看護介護部長
看護師 介護支援専門員
認知症ケア専門士
坂井 加津美